明日への希望、日々の道しるべに

2026年版カレンダー

鎌倉・逗子の四季

鎌倉

鎌倉市観光協会の2026年版カレンダーは、今回26作目となり、デザインを一新し、掲載写真の撮影場所を地図付きで紹介するなど「鎌倉に行きたくなるカレンダー」を目指したという。

市内で撮影された「鎌倉」プロモーションフォトコンテスト2025の入賞作品が表紙を飾り、観光協会主催行事など、季節感のある写真を掲載し、恒例の花暦を巻末にまとめた。

1・2月は材木座海岸の「潮神楽」（山本拓司さん撮影）、7・8月の「久しぶりだの～」（佐藤スズムさん）は一の鳥居を入れて鎌倉花火大会を写し、11・12月の「突然の雨」（小嶋典生さん）で材木座海岸の夕暮れ。いずれも「鎌倉」プロモーションフォトコンテスト2025ぜ～んぶ鎌倉―の入賞作品が採用された。ほか静の舞や妙法寺の苔庭、鎌倉新能など鎌倉ならではの風景が載せられている。

文字は見やすいユニバーサルデザイン書体を使用し、SDGsに配慮して植物油インクを使った環境にやさしいカレンダー。六曜や鎌倉市内の寺社の花暦も掲載しているので、計画立てや散策・観光に役立ち、鎌倉土産にしても喜ばれる。

B4判（見開きB3サイズ）、1320円（税込）。同協会事務所（鎌倉駅西口）や鎌倉市内の書店などで販売。STORES「かまくらくっず」（オンラインストア）でも。同協会☎0467・23・3050

鎌倉彩光

古都写真家・原田寛さんが撮影から印刷指示まですべて監修する完全オリジナルカレンダーは「鎌倉彩光」。

表紙は本覚寺のカワズザクラのピンクが彩り、1月の「妙本寺雪」は白銀の風景、3月「龍寶寺レンギョウ」、5月「片瀬西浜ハマヒルガオ」、6月「長谷寺アジサイ」、8月「成福寺サルスベリ」、と溢れんばかりの花で彩られた風景。11月の「名越切通サザンカ」は花を手前に富士山を望み、12月の「江の島『湘南の宝石』」は江の島の夜景で、撮影場所が気になるところ。

逗子旅カレンダー2026「馬」

逗子市観光協会が20（いずれも大崎公園）、と19年から作成している「逗子旅カレンダー」。

2026年版は、逗子市から望む四季折々の美しい。10月「冠雪」・11月「暮秋」と彩花粧した富士山が見られる。

写真に魅せられてすぐにでもその撮影場所に行ってみたい気分になる。その写真もさることながら、季節を表す文字熟語に情趣が感じられる。

A3判、5百円（税込）。逗子市役所内の同会で販売。逗子市観光協会☎046・87・1111

暮らしとともに

湘南モノレール

湘南モノレールは今年3月、開業55周年を迎え、「湘南モノレール開業55周年記念「2026 年カレンダーフォトコンテスト」を開催した。

コンテストは今年9回目で、テーマは「湘南モノレールと、その風景」。カレンダーの表紙と、1月「日本晴れ！の下をモノレールが通り過ぎる情景がとても素敵で撮った」という。

25年12月の「トワイライト」（和久田学さん）と、1月「日本晴れ！」と2025年12月から26年12月まで入賞作品14点が紹介されている。

表紙の「頭上を越えて」（三田村裕さん）の作品は最優秀賞を受賞。「ギラギラと夏の日差しが照りつける午後、木々の葉の間から日の光が漏れてそ（三浦星夢さん）には富士山の姿、2月「V字モノレール桑原宏幸さん、3月「丸目のラストラン」（保矢大樹さん）、4月「桜に思いを寄せて」（花嶋祐治さん）、5月「竹林を映して」中根伸博さん、6月「山を登る」（吉岡拓哉さん）と、躍動感のあるモノレールの姿を捉えている。

7月「残照に走る」（橘正敏さん）は夕日を受けた大船観音8月の「悠久の街を見下ろして」（服部禎仁さん）は街の向こうに海、9月の「未来を見守るレール」湘南深沢（三木啓司さん）は、湘南深沢に新しい街の姿を想い描いた。10月「紅葉の終着駅」（馬場博さん）は江の島駅のみどと姿を捉えた。

11月「秋（吉田拓哉さん）は夜景。どれも風景の中にモノレールを巧みに写し込んでいる。

六曜表記入り、見開きA3判、800円（税込）。湘南モノレール☎0467・45・3181

江ノ電カレンダー

「江ノ電（えのでん）」と呼ばれ親しまれている江ノ島電鉄は、1902（明治35）年9月1日藤沢―片瀬（現・江ノ島）間を開業した。以来、120余年、地域の公共機関として住民生活に溶け込むとともに、観光客にも愛されている。

江ノ電のカレンダーは、今年で15作目。藤沢市にアトリエをもつ画家・湯浅誠さんが描く江ノ電沿線の四季折々の風景画7点で構成している。

表紙は、「タンコロ」と呼ばれ昭和に活躍した108号車から現在活躍中の人気の305号車まで江ノ電の車両が勢ぞろい。

1・2月「初詣日和 龍口寺前 新春の装い」、3・4月「花影の駅 極楽寺駅 春を運ぶ緑の電車」、9・10月「光の岸辺 秋を彩る江の島花火大会」、11・12月「黄昏の小動岬 そびえたつ富士、江ノ電 風景」など、四季の移ろいの中で行き交う人々の姿と江ノ電、街並みや自然の風景がダイナミックに描かれている。

六曜を表記し、鎌倉・藤沢の年中行事も掲載。

A2判、1300円（税込）。江ノ電グッズショップ藤沢・江ノ島・鎌倉、江ノ電駅窓口 鎌倉駅、江ノ電バス案内所、オンラインショップなどで販売。

江ノ電卓上フォトカレンダー

「時代をめぐる江ノ電」をテーマに、1980年から2025年の江ノ電の写真を、表紙と毎月1枚の13枚で構成したカレンダー。

表紙には、茶色とクリーム色の「チョコ電」、7月の昭和の祭り風景には、神輿と江ノ電が写っている。絵はがきとしても使える。

990円（税込）。江ノ電主要駅やオンラインショップなどで販売。江ノ電エリアサービス☎0466・23・2251

鎌倉の伝統文化

鎌倉彫カレンダー

江戸時代から昭和期にかけて制作された作品を掲載している。

1・2月「舞楽面蘭陵王（面箱）」後藤齋宮作は蓋の中央に蘭陵王の舞楽面が彫られ、金で飾られた面箱。3・4月「芍薬牡丹文香合」は優美な牡丹文様の香合、5・6月「茶自奏笛作は舞楽面。

日本語と英語の解説付き。六曜表記。

タテ69㎝×ヨコ33㎝、1600円（税込）。由比ガ浜の鎌倉彫工芸館と小町2丁目の鎌倉彫会館などで販売。伝統鎌倉彫事業協同組合☎0467・23・0154

鎌倉能舞台

1月「玉井」に始まり、2月「室君」、3月「吉野静」、4月「屋島」、5月「杜若」、7月「船辯慶」、8月「井筒」、9月「三輪」と狂言について英文で紹介されている。

見開きA3判、1500円（税込）。

鎌倉能舞台では年に数回「能を知る会」の定期公演を行っている。年明けは1月24日に鎌倉公演。

問い合わせ鎌倉能舞台 鎌倉市長谷3―5―13☎0467・22・5557

アート作品

万葉 野の花

鎌倉市在住の野の花画家・阿見みどりさんの米寿記念自撰画12カ月の花のカレンダー。

万葉集に詠まれている野の花を水彩で描き、万葉歌を添えている。

1月はツバキ。「河の上のつらつら椿つらつらに見れども飽かず巨勢の春日は 春日蔵首老」の歌が添えられている。5月はショウブ。「霍公鳥（ほとと）鳴く時無し菖蒲（あやめ）縮にせむ日比ゆ鳴き渡れ よみびと知らず」。6月はアジサイ。「紫陽花の八重咲く如く弥つ代にをいませわが背子見つゝ偲はむ 橘諸兄」、12月はアシ。「若の浦に潮満ちくれば潟を無み葦辺をさして鶴鳴き渡る」と、月ごとに野の花が繊細な筆遣いとやさしい色彩で描かれていて、添えられた歌も味わい深い。

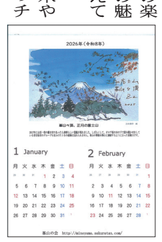
和紙を使用し、六曜表記あり、意訳・英訳付き。A4判の額絵カレンダーは、1650円（税込）。ミニカレンダーはタテ210㎜×ヨコ100㎜、1100円（税込）。銀の鈴社☎0467・61・1930

かまくらカレンダー

鎌倉在住のイラストレーター伊東雅江さんによる卓上カレンダー。鎌倉近郊の名所や建築物が12カ月を彩り、鎌倉の新しい発見ができる。

イラストの解説文（「かまくら散策」）付き。タテ10・5㎝×ヨコ14・8㎝、1320円（税込み）。

12月中旬ごろから鎌倉市川喜多映画記念館、たらば書房、一翠堂などで販売。



里山の自然

鎌倉・一瞬の輝き ―季節の贈りもの―

「フレンズオブカマクラ・台峯」が作製した カレンダー。

同会（台峯を歩く会）は、2001年12月に台峯緑地保全のため設立。毎月第1木曜日に活動している。

鎌倉在住の自然観察指導員・池英夫さんが台峯の自然を撮影した13枚の写真で構成。表紙はキアシンギ。ハイニフティ.com

里山カレンダー

「鎌倉峯山の会」が作画12点で構成した6カ月製したカレンダーの3作目。

同会は、2017年から峯山（標高98m）と常盤緑地周辺の山桜の保護や散策路の整備を行っている。青空保育のサポートなどの活動も行い、山住事の楽しさ、里山の魅力などを伝えている。

峯山の花木や風景のスケッチ。

千円（税込）。来年分は完売。問い合わせ吉田さんzeng@my.zaq.jp

高僧の書と禅語など

天下 禅林

鎌倉の臨済宗建長寺派大本山建長僧堂柏林室・酒井泰玄老師が揮毫した禅語を表した書で構成されている。

「風蘭」から始まり、1・2月「迦葉微笑」、3・4月「花知一樣春」（花は一様の春を知る）、5・6月「雲悠々」、7・8月「水潺々」、9・10月「月知月秋」（月は明月の秋を知る）、11・12月の「冬春来春来遠」（冬来たりなば春遠からじ）」で締めくくる。

「雲悠々水潺々」は、つらい猛暑にあっても、雲のようにゆったりと、小川のせせらぎのように静かに、心地よい涼の世界へ入るという禅語。日常生活のヒントに。

現代語表記が添えられ、月ごとの同寺の行事予定も記載。書は台紙から取り外して墨書作品として飾ることもできる。六曜表記。タテ73㎝×ヨコ31㎝。1500円（税込み）。絵馬、左側の朱印所で販売。建長寺☎0467・22・0981

清 楽

北鎌倉の臨済宗円覚寺発行のカレンダー。臨済宗円覚寺派第218世管長横田南嶺老師の揮毫の書画13作。

1月「壽無量」、4月「精一杯生きよう よろこんで」、5月「喫茶去」。6月は「美しい人の美しい心にふれて こころみだされず生きてゆきたい」坂村真民、7月「来てみれば森には森の暑さかな」、8月「報答父母恩」、9月「風月清」、そして12月は「寂然」で締めくくられる。六曜表記。

喫茶去「お茶をどうぞお召し上がりください」と人へのおもてなしの心や親への感謝の気持ちを持つことと、1年を「寂然、心静かに締めくくることの目標を示唆してくれる。

卓上タイプでタテ10・5㎝×ヨコ20・5㎝。605円（税込）、境内売店で販売。円覚寺☎0467・22・0478

藤澤浮世絵館カレンダー

藤沢市藤澤浮世絵館が作成。

弁財天を描いた歌川国芳の浮世絵を片面に、もう片面に江の島から望む富士山を描いた歌川広重の浮世絵をあしらった両面カレンダー。

1～6月は歌川国芳（1798～1861年）の「題名不詳（弁財天）」で、弁財天が「産後寿」「しゆつせ（出世）を松」「よのなか（世）ほどの馥（ふく）繁昌の酒梅」のめでたい木々を育てている図。「江の島へ 百味をかけて たつ（辰）の日の あすはみ（巳）になる 金を入るらん」と歌が添えられている。

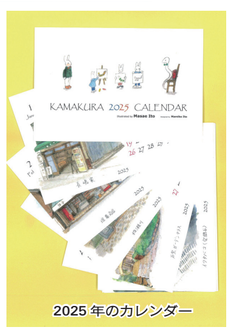
7～12月は歌川広重（1797～1858年）の「東海道五十三次 相模 江ノ島入口」。広重が最晩年に制作した掛物の一つ。江の島の鳥居（青銅鳥居）の先に富士山が描かれているが、実際にはそのように富士山は見えないので、めでたい景色とするための構図という。

A2縦型、400円。藤澤浮世絵館☎0466・33・0111

ほっこりアートカレンダー

障害者の就労支援を目的に活動する特定非営利活動法人「道」が運営する障害者福祉サービス事業所「道工房」では、障害の有無に関係なくアートをコミュニケーションツールとして会員たちが「明るく・楽しく・美しく」をモットーに独創性あふれる制作に取り組み、毎年カレンダーを作製している。

まちや森の風景画、小鳥や植物の絵など、豊かな感受性とやさしさがあふれ、「ほっこ



収益は同工房通所者に還元。道工房☎0467・23・8772

＊愛読者プレゼント

「鎌倉」を5人、「能」を10人に。往復ハガキに希望カレンダー名と鎌倉朝日の感想、住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、1面題字下の住所の鎌倉朝日へ。12月8日消印有効。多数抽選。